

地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自ではないが、法人の理念を独自の理念と捉えている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	取組もうと心がけているが、完全ではなく、ゆったりとした時間がおくれていないのも事実。実感がわからない時もある。	○	日々、理念を考え自分たちが行っている事が理念に合致しているか振り返る機会を作っていく。 (職員会議などを通して)
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の人々との交流は、まだまだ多くはないため浸透しているとは言えない。家族への浸透はしていると思う。	○	運営推進会議などを通じて地域への発信をできればと考える。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地元に住む職員が多いため一部は出来ているが、気軽に立ち寄ってもらえるなど日常的な付き合いまでには至っていない。	○	園外の散歩や買い物など、日常的な付き合いができる場を作ることが必要。四季折々の行事などを計画して声掛けを実施していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学生のボランティアの受け入れや、子供会の行事への協力を行っている。しかし、積極的に外へ出ていく機会が少ない。	○	地域の中に入っていくため、行事で参加できるものはないか調べ参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者との交流がなく取り組めていない。	○	老人クラブや一人暮らしの高齢者との集いなどを通じて、頼れる所が近くにあるということを知ってほしいし、力になりたいと思う。知り合うきっかけや、交流の方法など具体的な話し合いを事業所として行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解し少しずつではあるが改善に向け取り組みを行っている。（業務時間の柔軟な変更など）		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	活かしているが全てではないと思う。	○	災害時の連携体制など具体的な形のを構築していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度は市の行う研修事業への協力などを通じて行えたと思うが、事業所自体の質に関してはまだまだ課題が残る（職員体制など）	○	事業所内で出来る範囲において体制の変更を随時行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修などを通して学んでいる。必要な人への説明も行っている。	○	全職員が学べるように勉強会の機会を設けていく。（前年度に一度したきりなので）
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。職員会議などで勉強会も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	理解と納得をもらっている。契約時においても解約時においても分かるように説明を行っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	特別な機会は設けていないが、日常の中で利用者の声を可能な限り聞いて対応している。外部者としては相談員が月2回訪問され利用者の声を聞いたり、気づきを知らせてもらい役立っている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	月1度請求書発行の際、事業所の便りとして新聞を発行している。この状況を知らせる手紙も添えている	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議の場で同うようにしているが、意見は少ない	○ 御意見箱を設置しているが活用されていないため、面会の際などに声を掛けていきたい。月に一度アンケートという形で意見を求められれば良いと思うので、文章化して実現に結び付けたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月に一度の職員会議で意見交換を行っている。管理者の決められる範囲の提案や改善については反映を行えている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	努めているが、ぎりぎりの職員数のため（特に常勤者）無理をして確保している事がある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	行われていないと思う。「去る者は追わず、来るものは拒まず」では人材は育たないと思う。異動があっても利用者にダメージが無いように現場では配慮を行っている。（新しい職員はしばらくは旧職員の一緒に勤務を重ねるなど）	○	管理者を通じて運営者への意見を繰り返し伝えていく。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加したくても、人員基準を下回らないように勤務を組む事が難しく、外部研修に参加する機会が制限されてしまう。法人として進めているわけではないが、事業所レベルで機会の確保に努めている。	○	パートの活用など今後はもっともっと知恵を絞って時間を取っていきたい。事業所内での研修に力を入れ補っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会などには加入しているが、年2回ほどの全体会、3回の研修会しか集える機会がないので、同業者との交流はほとんど行えていない	○	事業所独自だけでは限界があるので、管理者等を通じネットワークを作っていきたい。自分たちが出ていくのは現段階で不可能なので、来てもらえるような体制作りをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	まったくというほど取り組めていない。就業時間中の休憩時間が取れない。	○	職員があと少しだけ増えれば軽減できると思う（特に夜勤が）管理者がもっと職員の不安に思っている事を理解していくこと、不安が解消できるような教育プログラムを作成出来ればと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	取り組めていない部分もあると思う。	○	資格等を取得した場合に手当（給与にて）をつけるなど、さらに上の資格を目指せるような仕組みを作してほしい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	努力はしているが困難な場合もある。	○ 入居前の調査は管理者と担当する職員で行い、必ず面識を持つようにしている。今後も続けていく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	可能な限りの努力はしている	○ 入居の相談や見学の段階で、時間の取れる限り丁寧に説明を行っている（費用面はもちろん、事業所で出来る事できないことの範囲についても）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限りの努力はしている	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来ている（必ず本人、無理な場合は家族に契約前に訪問してもらっている）	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	築けていると思うが、すべての人と出来ていないかもしれない。	○ 認知症の進行により、何を求めているのかわかりにくい人もおり、そのようなケースでは日常の様子を観察しその中から支えあう関係を築いていきたい。

宮崎県都城市 グループホーム庄内ひかり（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一部の家族とは出来ていない。	○	遠方に住むなど面会の機会が少ない家族などとは、現在の本人の状態についてズレが生じているようなど、家族にも分かるような説明で理解しあえる環境を作っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	支援できている。面会時に話を積極的にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの場所への部分では、実際に連れて行くことができないなど支援の難しさを感じている。	○	突然に出掛ける事は人員配置上難しい状況なので、計画をした上で実行していきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めているが現実には症度の違いや理解度の違いなどから、難しくなっている。食事の際、利用者同士が不快にならないよう座席の変更などこまめに見直して行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在のところ継続的な関わりを必要とするケースがないので実施していない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活している中で、本人との会話や様子などで伺い知ろうとしている。空白の部分については家族に聞くなど把握に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活している中で、本人との会話や様子などで伺い知ろうとしている。空白の部分については家族に聞くなど把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握できるように努力しているが十分ではない	○ 職員間の連絡を密にし、些細な変化も見逃さないよう目配り、気をくばり配慮していきたい。連絡が口頭だけで終わらないように連絡ノートや個人記録に残していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人を含めての話し合いはできていないが、個々との話し合いは行っている。	○ 車椅子の利用者が多くなっているが、介助のやり方、入居者がいかに身体に負担や痛みがなくなるか、不安を取り除けるか、職員同士で話し合い計画をしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人を含めての話し合いはできていないが、家族には相談という形での取り組みをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務に追われ十分な記録ができていない	○	個人個人をもっとしっかり見て、余裕をもって接し、介護計画の見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限りの支援はしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	赤十字のボランティアなど一部実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居中に関しては他の介護保険上ではサービス利用をしていない。医療としてリハビリを行ったり、歯科往診にて口腔ケアを実施している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護などについては成年後見制度の説明など、必要な利用者家族に対し説明を行っている。地域包括支援センターとの協働は今のところない。		

宮崎県都城市 グループホーム庄内ひかり（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一部の入居者を除き、本人、家族が希望通り納得得られる医療を受けられていないような気がする。	○	かかりつけ医の理解が求められそうにないので、取り組むのが難しいが、看護師などを通じて少しでも改善に努めたい
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師が身近にいないため実施できていない。	○	医療機関同士の連携がどのようになっているのか調べて取り組めるようにしたいが、難しい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	まだ十分でない。	○	些細なことでも相談できる体制が病院側に整っていないような気がするので、担当看護師と話し合いの機会を持っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者を窓口として行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部の入居者や家族とは共有できているが、十分ではない。	○	介護度も上がってきているので、早急な取りかかりが必要になってきている。話し合いから始めていき書類を作成していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	十分ではない。（介護側と医療側との連携が）	○	本人、家族の意向を踏まえた上で看護師を通じて、医師への理解を求めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来る限りのかかわりを続けていきたいと思うが、継続して関わることはあまり出来ていない。他の施設へ移る際は、詳しくサマリーを作成し本人の環境変化を最小限にするようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛け等注意しながら努力している。	○	不備があった場合に職員同士お互いが注意しあえる体制を築いていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が分かるような言葉や仕草などを用いている。しかし、本人が納得できているかはわからない。	○	自己決定が難しくなっている入居者もいるが、本人の好みなどを考慮しながら出来る限りの支援をしているし、これからもしていきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まり事などを優先してしまいがちであったが少しずつは改善している。十分ではないが、その人のペースを大切にしている。希望に添えているかはわからない部分も多い。	○	業務優先にならないよう職員同士もっと話し合い、職員同士の理解から始め、入居者の希望に配慮できるよう努力していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望むものかわからない部分もあるが、身だしなみなど気をつけている。家族の方と美容室にでかける方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を共にとったり、片付けをしたり、できる入居者には声をかけお願いしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の希望には添えていない。医療的な管理で制限もあったりする。	○	外出の際などは好きな物を選んで食べる機会を持っているが、限られた回数になっている。外出の機会を増やしていく
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を記入し一人一人に合わせて行っている。	○	夜間は定期的な誘導や交換になってしまっているため、改善していきたい（各棟での夜勤体制になれば実現可能）
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合になってしまっている部分もあり十分にはできていない。	○	職員配置を見直して、夕方や就寝前に入浴も行えないか検討する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	以前よりは出来ている。夜寝ないからとの理由で昼間は無理に起きていてもらうなどはなくなった。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみなど力を活かした役割はあるが、楽しみや気晴らしが少ない。	○	本人にとっての楽しみや気晴らしが何かを再度探って一つでも実施し増やしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施できていないが、外出の際などお土産購入の機会に支払いなどを行っている。	○	日常生活でちょっとした外出など増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の希望には添えていない。	○	職員不足によって実施が難しい現状ではあるが、余裕のある時だけでもできるようにしていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1～2ヶ月に1回であるが定期的に行っている。	○	今後も戻すばみにならないよう継続して行っていく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば実施している。電話も取り次いだりする支援を行っている。	○	代筆や代弁の支援を行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の宿泊もあり、面会時には居室やリビングで場所の提供も出来ている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解し取り組んでいる。	○	新しい職員への勉強会ができていないので早急を実施する。


宮崎県都城市 グループホーム庄内ひかり（1号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の状態を把握し、動きの多い方は居場所の確認をまめに行うなど配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に応じて行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書などを活用しながら行っている。	○	薬の保管場所や服薬時の確認など更なる徹底をしていく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが定期訓練が行えていない。	○	事故を想定した訓練を定期的に行っていき、全職員が自信を持って行えるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災警報器や消火器訓練は行っているが、避難誘導の訓練ができていない。	○	早急に対策を考え実施する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	管理者、主任より入居時、状態変化時に起こりうるリスクやその原因として考えられるもの、起きた際のダメージなどの説明を行っている。事業所ができる事できないことにも説明し、トラブルを未然に防ぐ努力をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見に努めている、連絡体制も主任、管理者に情報が届くようになっている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を使用している。副作用の理解の部分が弱い。	○	今後の一覧表作成時に充実したものへ変更していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	サツマイモなど繊維質の多いものでおやつを作ったり、十分水分をとれるようにしながら行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは不十分だが就寝前はしっかりと出来ている。定期的な（週1回程度）歯科往診で義歯の調整や口腔ケアを実施している。	○	毎食後の口腔ケアを実施する。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は記録されており、状態に合わせて摂取しやすい状態に刻みやミキサー、とろみをつけるなど工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	新たなマニュアルも作成した。手洗い、うがい、消毒、パッド交換時の手袋着用の徹底などを基本に行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁の殺菌庫での保管や食器の乾燥、食材を扱う前後の手洗いを中心に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に行っていないが玄関周りに花の置物を置くなどで、施設っぽさをなくすようにしている。	○	敷地の入り口である門に簡単なカギが付いているが外からは入りにくいかもしれない、安全確保のためではあるがもっといい方法はないか考えてい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調に頼らず外気を入れたり、季節の飾りを行うなどなど、季節を感じられるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった入居者同士でリビングや玄関先のベンチで話している姿も見られる。転倒の危険性が高い入居者の方は職員の目の届くリビングで過ごすことが多い。	○	入居者の対応に合わせながら、手すりの増設など行っている。ソファを購入してもう少し居場所を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいる。生活がしやす いようにベッドやダンスなど配置も工夫してい る。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度調整や換気を十分行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	必要な場所に手すりがなかったりと十分ではな い。状態変化に対応できていない部分もある。	○	コストの問題もあるので、全部はできないが優先 順位をたて改善を図っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	声掛けの工夫など行っているが、十分行えていな い部分もある	○	職員配置という大きな課題もあるが、行える時は 必ず行うということを心掛け実施していく。職員 同士も気付いたら注意し合う。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	一部の入居者になってしまうが、花や野菜を植え たりして楽しまれている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎月とはいかないが外出を計画して実行している。回数を重ねるごとに近場から徐々に距離も伸び、計画も充実してきている。(季節を感じてもらえるように花見や、イルミネーション見学など) 月一回の会議でアイデアを出し合いケアにつなげている。認知症についての詳しい症状や、脳の仕組みなどについて勉強会を定期的に行っている。